

社会人のための情報システム誌  
— 経営近代化のシステム研究 —

# Computer Report

# 11

2018 No.770

## 3 はじめの言葉

### 4 丸投げ時代の疑問とクラウド活用のリスク

田原文夫

その昔、コンピュータ資源は自分で保有するのではなく、社会的資源として共有することが望ましいという考え方が出た。それを実現したのがクラウドである。それはクラウドのアドバンテージだけに注目した場合の論理である。特に、ユーザーデータの格納／管理をクラウドに丸投げしてしまうことのリスクを忘れてはならない。何でもアウトソーシングが流行る時代である。クラウドを考え直してみたい。

## 10 情報社会を考える その98

### 情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

#### データ改竄／隠蔽の原点--その2

日本を代表し、世界に「日本品質（ジャパニーズクオリティ）」を誇ってきた製造業大企業が勢揃いして地に落ちていることは前号でも述べたところだが、地震大国日本を震撼させるように、免振装置でも、基礎的データの改ざん／隠蔽が判明した。各種の製品品質を保つために設定されている基礎データ制度も、何のことはない、見せかけ上の書類はいくらでもねつ造でき、形ばかりの書式を準備すれば、簡単にクリアできてしまうことを、今回の事件が証明している。国民／顧客の側からしたら、制度を管轄する行政機関の役人と当該事業者の双方の杜撰な対応ぶりに、文字通り翻弄されている現実がある。役人を官僚というが、当該事業者の社員も官僚ならぬ民僚（みんりょう）ぶりを見事に発揮、無責任な所業ぶりを押し通している様が見て取れる。それで、高給を食んでいるのだから恐ろしい。ちなみに、ねつ造された性能表示のまま出荷された免振装置が設置された建造物に対する無責任な対応ぶりには、言葉を失うばかり。

## 12 デジタルガバメント DG10

### デジタル政府の展開 その10

水田 浩

デジタル化は人々の生活の質を向上させる。2018年1月16日に日本政府もデジタルガバメント実行計画をeガバメント閣僚会議で決定した。この計画は、28年1月16日から2023年3月31日までの計画である。2018年上半期を目途に各府省庁における中長期の戦略的な計画を策定をする。電子政府はICTを使って政府側から国民に行政サービスをより早く、より安く、より良くするのが目的だがデジタルガバメントは顧客（国民、企業、職員）側から政府の行政サービスを探し易く、繋がりがやすく、何時でも何処からでも誰でも使えることを目的としている。

## 1 9 連載 アーキテクチャ論 (91)

### DX「見える化」指標の考え方

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 大学院 情報学研究科 教授

本稿では、「見える化」指標について、基本指標、共通指標、個別指標からなる「見える化」指標の階層構成を紹介する。特に、経済産業省のDXシステムガイドライン[1]に基づいて基本指標を具体化する。また、共通指標について関連する評価指標を例示する。さらに、今後の課題を整理する。

## 2 7 連載 情報システム考

### 企業情報システムの変遷と行方 第14回

Dr.ベスト

昨今、クラウド、ビッグデータ、AIなどをベースとした情報システムが社会的規模で普及する中、それらのシステムを各企業規模すなわち自社（社員）レベルでコントロールできない状況へと進展している。換言すれば、「情報システムのコントロール不可、すなわちアウトソーシング依存現象」である。企業にとって情報システムは、企業の神経／血液そのものであり、コンサルタントや弁護士に限定された範囲での業務を委託したり、物流や警備をアウトソーシングするような対象のものではないはずである。

## 3 4 IT新時代とパラダイム・シフト

### 第108回 我が国の携帯料金の

#### 値下げが問われている

根本忠明

安倍政権は携帯料金の値下げを指示してきたが、これまで成果は上がっていない。我が国の携帯料金は、海外諸国と比べてみても、国民の生活費における負担からみても、高すぎる。この原因は、政府・監督官庁による事業者本位の政策の失敗にあると見てよい。携帯料金の値下げは世界的な流れであり、わが国でも、欧米やアジア各国が推進している携帯電話の競争政策の強化と電波資源の開放が、求められている。

## 3 7 続インテリジェンスへのいざない 105

### 好みの料理作りと

#### インテリジェンス創造プロセス

今井 武

自ら最良の意思決定をするに必要なものがインテリジェンス情報である。言うまでもなく、生情報としては存在しているものではない。文字通りの玉石混交のデータ情報の中から、然るべき情報管理課程を経て自らが創造するものである。その過程（プロセス）は、ちょうど、食材集めから始め、最終的に自ら好みのオリジナル料理を作る課程と通じる。

## 3 9 連載 新語録（ごろく）30

すぎやまちヒロ

本誌ホームページをご覧ください。

## セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における  
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで  
株式会社 日本経営科学研究所  
ComputerReport編集部

[cr-info@jmsi.co.jp](mailto:cr-info@jmsi.co.jp)

# CR 選書のご案内

## CR選書

**改訂版**  
**データ・ウェアハウス**

定価 本体 2,800円＋税 送料(〒300) A5版 289頁

石井義興 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 EHCが必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータウェアハウスサポート
第二章 データベースとデータウェアハウスの関係と刷新点	第八章 データウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータウェアハウス	第九章 データウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとテスト・リレーショナル・モデル	第十章 データウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正確性の問題点とデータウェアハウス	
第六章 データウェアハウス管理システム	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**実践データ・ウェアハウス OLAP**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300) A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 これまでのEHCにできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構築
第三章 CodeベースによるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析集積の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

## CR選書

**消費者行動論**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300) A4版 331頁

田原文夫 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動とピクセス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動とピクセス)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

aism 研究活動報告  
**インターネットセキュリティの 落とし穴**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300) A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修  
aism情報セキュリティ・マテリアル研究会 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM KLEZの蔓延と国家記録
第二章 aism情報セキュリティ研究会の発足	第十二章 メールが騙かGLI
第三章 認知される電子署名方式の基本論	第十三章 任意ネットワーク利用のための認証サーバーの構築
第四章 署名を拒められたCodeRedワーム	第十四章 第五のインターネット防衛戦線心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 1万バグの虫と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 WWW(インターネット)の脅威	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2002年度の事業活動	第十八章 ネット「お祭り」作戦にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の脅威と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

## CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！  
**トップ主導の 情報システム革新**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300) A4版 271頁

高田 顯重 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム監査	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**計量モデルの構造と解法**  
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 2,000円＋税 送料(〒300) A4版 212頁

安田 聖 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分割方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 分散式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計算方法	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

## CR選書

**『いざ！というときの得広報』**  
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,400円＋税 送料(〒300) A5版 280頁

加藤洋一 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

■ 広域ビジネスの経営条件	■ 売玉も企業体質
■ ニュースリリースは東方向優先	■ 守るも求めるも広報が窓口
■ 文字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のタイミング	＜付＞記事とうまく付き合う十六の鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**ザ・ワールドリンク**  
がんばれ、国際グローバルサーバー  
—IBM社会に挑んだ国際情報システム作りの物語—

定価 本体 1,800円＋税 送料(〒300) A5版 269頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 発端	第十一章 日本国子法の選い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米岡チーム編組の軌跡
第三章 新しシステムへの働き	第十三章 新たな陣っ
第四章 WCIに向けて	第十四章 北野幸彦の移住と新たな役割
第五章 F&C、IBM競争	第十五章 国際フル編組と1/4ネットアップ
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本国子法と本業提携日程
第八章 米岡チーム立ち上げの証	第十八章 既存システムとのデータ交換の課題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 探訪その一 直前、直後の苦しみ
第十章 米岡チーム、勝となる三人数	第二十章 探訪その二 安定稼働と北米センター稼働

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)